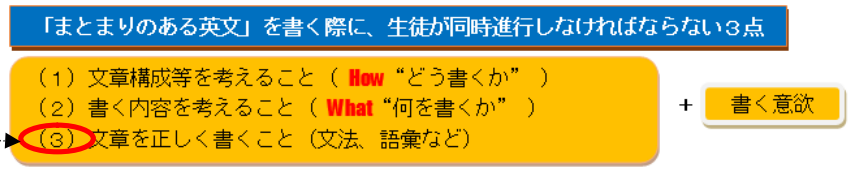
書くこと　指導のポイント

（その５）

～　「まとまりのある英文」を書く活動の充実 ⑤　～

「まとまりのある英文」を書く際に、文章構成、内容よりも、（３）文章を正しく書くこと（文法、語彙など）に気を取られすぎてしまい、英文を完成できないという生徒の声をよく聞きます。



今回は、「まとまりのある英文」を書く際の、文法や語彙等の指導の方法等について考えてみます。

「まとまりのある英文」を書かせる際は、生徒に、あまり「文章を正しく書くこと」ばかりにこだわらず、文章構成や内容に集中するように指導しています。

意味伝達の上であまり重要でない細かい文法や綴りのミスについては、気にしないように指導されている先生はとても多いと思います。

「まとまりのある英文」を書く際の評価の観点は、

○ 文章構成　　○ 内容

この二つが中心となると思います。そう考えると、あまり細かいミスにこだわらせないというのは、間違いではありません。

また、「まとまりのある英文」を書く際は、この「文章構成や内容を評価する」という点を、生徒にも事前に示しておくとよいでしょう。

細かいミスといっても、きちんと指導したいです。
文法事項の定着も大切だと思うので…。

そのとおりです。細かいミスなどにこだわらせないのは、生徒たちに、「まとまりのある英文」を文章構成や内容に集中させて書かせたいためです。生徒のミスをそのままにすることを意味していません。完成後にミスについて指導することが大切です。

どんな方法で指導しますか？　教師側からの訂正ばかりでは、書く意欲をどんどん削いでいくようで…。

自らのミスに気付き、自ら修正する力

を育成したいものです。

そのために、英文が完成した時点で、各自でミスがないか英文を「振り返る」時間を設定するとよいでしょう。自然に英文を「振り返る」ことができるようになるよう意識して指導したいところです。

教師の指摘でミスを訂正しても、同じようなミスを繰り返すというのはこの力が育っていないことに原因があるのかもしれません。

また、不定詞を中心とした単元であれば、「不定詞の使い方が正しいか、もう一度自分の英文を確認しよう。」等と見直しのポイントを示したり、同じようなミスがたくさんある場合は、全体で解説し、再度英文を振り返らせたりすることも考えられます。生徒の実態に応じて工夫してください。

「まとまりのある英文」を書かせる際の、正しい文法や語彙等については、次の様に考えて指導します。

○　「まとまりのある英文」を書く活動では、**文章構成、内容を評価の主な観点**とする。その点を**生徒と共有**する。

○　文法事項、語彙等のミスについては、教師が指摘して訂正させるのではなく、「振り返る」時間を設定する等工夫し、**生徒自身が気付き修正**できるように工夫する。